



第9期 大津市 高齢者福祉計画・介護保険事業計画 (おおつゴールドプラン2024)

令和6年度事業の実績報告 及び

令和7年度事業（今後の方向性）について

高齢者人口推計 及び 要介護認定率等の推移

高齢者人口等の推計と実績

区分	(参考) 令和5年度実績	令和6年度推計	令和6年度実績	令和7年推計	令和8年推計
総人口	343,955	343,296	343,576	342,921	342,515
40歳未満	130,446	129,183	128,981	128,083	126,954
40~64歳	118,722	118,685	118,820	118,414	118,316
65歳以上	94,787	95,428	95,775	96,424	97,245
65~69歳	19,678	19,879	19,875	19,998	20,089
70~74歳	23,639	21,733	21,733	20,701	19,840
75~79歳	20,380	21,825	21,835	23,230	24,451
80歳以上	31,090	31,991	32,332	32,495	32,865
65歳以上：%	27.6%	27.8%	27.9%	28.1%	28.4%
75歳以上：%	15.0%	15.7%	15.8%	16.3%	16.7%
80歳以上：%	9.0%	9.3%	9.4%	9.5%	9.6%

※ 10月1日時点

■ 総人口は推計は上回ったが、令和5年度実績からは減少している。
高齢化率はほぼ推計どおり。

要支援・要介護認定者数の推計と実績



Lake Biwa

区分	(参考) 令和5年度実績	(ゴールドプランより) 令和6年度推計	令和6年度実績	(ゴールドプランより) 令和7年度推計	(ゴールドプランより) 令和8年度推計
要支援1	2,872	2,794	3,040	2,855	2,910
要支援2	3,379	3,398	3,504	3,475	3,551
要介護1	2,977	2,912	3,043	2,989	3,071
要介護2	3,828	3,950	3,855	4,060	4,184
要介護3	2,901	2,875	2,998	2,960	3,064
要介護4	2,111	2,179	2,078	2,245	2,330
要介護5	1,385	1,473	1,426	1,517	1,569
合計	19,453	19,581	19,944	20,101	20,679
認定率	20.4%	20.2%	20.8%	20.5%	20.9%
(参考) 事業対象者認定数		-		-	-

※ 推計値及び実績値は10月1日現在（令和5年度実績は3月末）

■ 令和6年度実績の認定率は20.8%であり、令和5年度実績と比較すると0.4ポイント高く、令和6年度推計より0.6ポイント上昇している。

基本目標ごとの 主な数値目標と実績

基本目標 1 医療・介護サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)

施策の方向：在宅医療・介護連携拠点の運営

施策：拠点訪問看護ステーションにおける医療・介護関係者の相談支援

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
拠点訪問看護ステーションでの相談	延べ相談件数	300	226	203

<令和6年度評価>

- 様々な機会を活用して、医療・介護関係者への周知啓発を引き続き行った。
- 困難事例の連携や緊急対応等、高度な相談が増加している中で、支援者との同行訪問等で実際の場면을共有した対応を行い、在宅療養体制の強化を図った。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 引き続き、様々な機会を活用して、医療・介護事業所への周知啓発を行う。
- 医療・介護関係者からの相談支援を通して、市民が安心して在宅療養を選択できる支援体制の強化を図る。

基本目標 1 医療・介護サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)

施策の方向：在宅療養支援体制の整備

施策：入退院支援ルールへの運用

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
入院時情報共有 (ケアマネジャー⇒病院)	割合 (%)	96.8	96.1	92.8
退院時情報共有 (病院⇒ケアマネジャー)	割合 (%)	96.6	95.9	95.1

<令和6年度評価>

- 医療との連携に関する居宅介護支援事業所への調査の結果、令和5年度と比較して割合は低下したものの、自由記載欄には以前に比べて連携が取りやすくなっているとの声が多数あった。
- 入退院支援に関する研修会を開催し、病院関係者とケアマネジャーが情報交換を行い、入退院支援ルールの運用推進を図った。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 病院関係者とケアマネジャーの入退院支援に関する情報交換会を開催し、切れ目のない支援に繋げていく。

基本目標 1 医療・介護サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)

施策の方向：在宅療養支援体制の整備

施策：在宅医療に関わる医療機関等の充実

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
訪問診療実施医療機関	医療機関数	92	75	令和7年夏頃

施策：24時間対応を可能とする連携体制づくり

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
機能強化型訪問看護ステーション	事業所数	5	4	4

<令和6年度評価>

- 訪問診療を実施する診療所をバックアップする3つの病院が、訪問診療実施医療機関を支援する体制をとっている。訪問診療実施医療機関数は減少したが、1診療所あたりの対応実人数や対応延べ人数は年々増加している。
- 訪問看護体制拡充補助事業を行い、機能強化型訪問看護ステーションの整備を行っている。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 訪問診療を実施する診療所をバックアップする3つの病院及び、医師会、訪問看護ステーションの連携を図り、在宅医療提供体制の維持・向上を目指す。

基本目標 1 医療・介護サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)

施策の方向：在宅療養・看取りについての普及・啓発

施策：市民が在宅療養・看取りについて考える機会の提供

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
ACP普及状況 (市民アンケート結果)	割合 (%)	36	-	令和8年度実施予定

<令和6年度評価>

- 在宅療養・看取りの市民啓発講座「おおつ在宅療養応援講座」や、多職種合同研修会を7つの保健福祉ブロックで開催し、ACPの普及啓発を行った。
- 人生会議を知り実際に考えてみるきっかけづくりを目的に、ACP啓発リーフレットを作成し、多職種・多機関による活用を促した。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 7つの保健福祉ブロックであんしん長寿相談所や拠点訪問看護ステーションが多職種連携協働による市民啓発を行い、ACP啓発リーフレットの活用も含めた取り組みを進める。
- 市民アンケートを行い、ACP普及状況の評価を行う。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)

施策の方向：地域リハビリテーションの充実

具体的なビジョン	評価指標	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
急性期、回復期、生活期 リハビリの連携ができています。	地域リハビリテーションサポーター会議 延べ参加人数(人)	185	166	91
	地域リハビリテーションサポーター会議 延べ参加事業所数(か所)	100	102	66
自立支援に取り組むサービスの提供ができています。	自立支援のための地域ケア会議に参加するリハビリテーション専門職の出席割合(%)	80	100	95

<令和6年度評価>

■ 令和6年度は地域リハビリテーションサポーター会議を4回実施。専門職間の関係構築のため、集合形式のみで開催したことにより、参加者数は減少した。自立支援のための地域ケア会議については、概ね全ての会議に専門職が参加できた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 引き続き、個々の状態に応じてリハビリテーションサービスを利用できるよう、医療保険で実施する急性期・回復期のリハビリから、介護保険で実施する生活期リハビリへ、切れ目のないサービス提供体制を構築していく。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：認知症に関する知識の普及啓発の推進

施策：認知症サポーター及び認知症キャラバン・メイトの養成と地域活動の推進

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
企業職域型認知症サポーターの養成	人数	8,400	5,773	6,261

<令和6年度評価>

- 企業の新入職員対象の研修の一環として定着してきている。
(A L S O K、平和堂、マックスバリュなど31回計488人)
令和4年度に作成した紙芝居を活用し、児童クラブでの講座を開催した。(5カ所の児童クラブ8回計402人)

<令和7年度事業・今後の方向性>

- eラーニングシステムやオンラインでの講座開催など、日中仕事などで受講できない人にも受講してもらえるような機会、システムづくりを検討する。また、児童クラブなど、こども向けの講座の内容を充実させる。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：認知症予防対策の推進

施策：早期発見・早期対応の充実

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績 (令和7年2月28日現在)
認知症簡易チェックサイト	延べアクセス数	5,000	3,565	3,317

<令和6年度評価>

- 日常業務の中での啓発のほか、認知症ギャラリーやおおつ健康フェスティバル、オレンジリングフォーラム等の催しでもP R等を行っているが、前年度並みの実績となった。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 65歳以上の方への案内や、広報おおつへの掲載など、積極的な周知・啓発に取り組み、利用者の増加を目指していく。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：保険医療サービス提供体制及び相談体制の整備

施策：「認知症初期集中支援チーム」による相談・支援体制の推進

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
認知症初期集中支援事業	支援後に医療につながっている割合 (%)	75	48.1	60.0
	支援後に介護につながっている割合 (%)	78	62.9	55.0

<令和6年度評価>

■ 年度途中での初期集中支援チーム員の欠員や、支援困難なケースが多かったことなどから、対応件数については減少したが、あんしん長寿相談所とも密に連携しながら、優先度の高いケースへの対応を最優先に行い、必要な医療や介護につなげることができた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 認知症初期集中支援チームの人材を確保し、チームとしての体制を整え、相談件数を増やす。併せて、少しでも多くの市民に当該支援チームの取組を周知し、早期発見・早期対応に努めていく。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：保険医療サービス提供体制及び相談体制の整備

施策：医療機関や医師会との連携体制及び相談事業の充実

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
認知症相談窓口協力事業所登録事業	登録事業所数	120	115	115

<令和6年度評価>

- 医師会の協力のもと、誰でも気軽に相談できる場所として「もの忘れ相談」をオンラインにて実施した。また、認知症に関わる専門職等が対応する「認知症相談窓口協力事業所」については、登録事業所数の増加は伸び悩んだ。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 今後も「もの忘れ相談」を開催し、かかりつけ医やあんしん長寿相談所等との連携を図っていく。
認知症相談窓口協力事業所登録事業については、周知が不十分であったことから、積極的に取組について発信を行い、目標達成に向け、推進していく。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：保険医療サービス提供体制及び相談体制の整備

施策：認知症の人の家族介護者への支援

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
認知症カフェ	実施している日常生活圏域の割合 (%)	80	53.3	53.3
介護技術教室	延べ参加人数	90	49	57
男性介護者の集い	延べ参加人数	30	17	6

<令和6年度評価>

- 認知症カフェについては、15圏域中8圏域において、計11か所の認知症カフェを開催し、うち1か所については、若年・軽度認知症カフェとして開催した。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 誰もが参加しやすい認知症カフェの設置・運営を目指しながら、現状設置出来ていない圏域での開催を推進していく。

基本目標 2 認知症の人や家族が安心して生活できるまち (認知症施策の推進)

施策の方向：認知症の人の生活におけるバリアフリー化及び社会参加の推進

施策：認知症の人に優しい地域づくり・地域での見守り体制の充実

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
行方不明高齢者早期発見ダイヤル登録事業	登録者数	350	411	465
大津市行方不明GPS位置情報探知システム利用支援事業	貸出累計台数	130	75	84
認知症高齢者個人賠償責任保険制度事業	新規累計者数	50	44	55

<令和6年度評価>

■ 行方不明高齢者早期発見ダイヤル登録事業については、103名の新規登録があったが、死亡等による削除者が49名で54名の登録者の増加となった。大津市行方不明GPS位置情報探知システム利用支援事業については、システム貸出累計台数が84台と昨年度から増加となっている。認知症高齢者個人賠償責任保険制度事業については、新規の累計加入者数が55名となり、目標を達成することができた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 各事業とも引き続き事業を実施するとともに、HPや各あんしん長寿相談所等にチラシを設置し、必要な方に更なる情報発信を行っていく。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：あんしん長寿相談所の機能強化

施策：基幹型あんしん長寿相談所の体制の強化

<令和6年度評価>

- 委託による圏域型あんしん長寿相談所1か所（令和6年8月1日に青山あんしん長寿相談所）を開設した。
- 機能強化を目指した、今後のあんしん長寿相談所のあり方についての検討を継続。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 機能強化を目指した、今後の基幹型及び委託による圏域型あんしん長寿相談所のあり方について方針を決定し、実行に着手する。

**基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち
(あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)**



施策の方向：あんしん長寿相談所の役割の充実

施策：ブロック別活動目標の設定

※ 資料別添

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：生活支援の充実・強化

施策：その他の在宅サービス

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績 (①②④については3月1日現在)
①緊急通報装置	利用者数	528	508	503
②紙おむつ給付事業	利用者数	1,859	1,592	1636
③寝具丸洗いサービス事業	利用者数	280	270	216
④配食サービス事業	利用者数	847	585	668
⑤ごみ出し支援戸別収集サービス	利用者数	140	133	185

<令和6年度評価>

■介護保険サービスの対象とならない高齢者や単身高齢者世帯、高齢者のみ世帯へ在宅生活を支援するための事業を実施した。紙おむつ給付、配食サービス、ごみ出し支援戸別収集サービスの利用者数が年々増加しているが、寝具丸洗いサービスは大きく減少した。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 高齢者の在宅生活を支援するため、今後も広く市民へ事業の周知を図っていくとともに、必要な人に必要なサービスが行き届くよう努めていく。
- ごみ出し支援戸別収集サービスについては、利用世帯によって収集回数に差があったところ、全ての利用世帯が同一の収集形態・収集回数となるよう4月1日付で制度の改正を行いサービスの充実を図る。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：生活支援の充実・強化

施策：消費者啓発事業

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
啓発講座等の開催	回数	10	24	18
	参加人数	200	569	556

<令和6年度評価>

- 高齢者に対し、消費者教育講座を開催できたことで、消費者被害の未然防止・拡大防止につなげることができた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 相談件数の多い高齢者に対し、引き続き消費者教育講座を開催し、消費者被害の未然防止・拡大防止に努めていく。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：暮らしの環境整備

施策：高齢者の住まいの安定的な確保

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
特定目的住宅の設置	年間設置戸数	15	15	15

<令和6年度評価>

- 特定目的住宅の設置については、令和6年度に新たに15戸を整備し、目標を達成した。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 令和7年度についても、計画的に特定目的住宅を整備し、高齢者の居住の確保に取り組んでいく。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：暮らしの環境整備

施策：住み慣れた住宅の改造助成

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
小規模住宅改造経費助成事業	利用者数	185	186	182
転倒予防のための屋内改修サービス事業	利用者数	10	7	8

<令和6年度評価>

■ 高齢者の在宅生活を支援するため、住環境整備に資する事業を実施した。小規模住宅改造経費助成の利用者数は、微減となった。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 高齢者の在宅生活を支援するため、今後も広く市民へ事業の周知を図っていくとともに、必要な人に必要なサービスが行き届くよう努めていく。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：防災・安全対策の推進

施策：地域の見守り体制の推進

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
高齢者等地域見守りネットワーク事業	協定事業所数	25	22	23

<令和6年度評価>

■ 令和6年度に、新たに1事業者と協定を締結することができた。また、高齢者の生活支援等サービスの体制整備の推進を目的に設置されている大津市第一層協議体と、「高齢者の見守り」をテーマに、合同で情報交換会を開催し、事業者同士の意見交換を行った。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 今後ますます高齢化が進む中、行政や関係機関、民間事業者などが協力し、地域社会全体で高齢者等を見守るネットワークの構築は非常に重要であることから、大津市社会福祉協議会や大津市民生委員児童委員協議会連合会と連携し、さらなる協定先の拡大に努め、異変のある高齢者の早期発見と必要な支援の提供につなげていく。

基本目標3 地域の中で安心して暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化・生活基盤整備の推進)



施策の方向：防災・安全対策の推進

施策：防災事業

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
防災メール登録者数	登録者数	16,000	11,992	11,708
防災ナビ登録者数	登録者数	26,000	22,879	25,831

<令和6年度評価>

- 防災メールについては、令和6年度で新規登録者数が387件あったが、防災メールの登録者数に関しては、配信不能や停止状態の登録者にかかるアドレスを削除しており、登録者数が減少している。
- 防災ナビについては、順調に登録者数が増加しているが目標数には到達しなかった。引き続き、広報おおつや出前講座等で周知していく。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 地域で出前講座をする際や、個別避難計画を作成を推進する際に、地域住民や、要配慮者及び要配慮者関連施設に対して、防災メール及び防災ナビを活用した情報収集を行うよう周知する。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいつくりの推進)



施策の方向：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

施策：高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
①重症化予防（糖尿病性腎症）	対象者に対する 保健指導実施率（%）	100	68.4	50.0
②重症化予防（高血圧）	対象者に対する 保健指導実施率（%）	80	85.7	87.5
③口腔機能低下予防事業	対象者に対する 保健指導実施率（%）	80	69.7	69.2

<令和6年度評価>

■ 令和6年度より、年4回、KDBシステムから抽出したハイリスク対象者に訪問等を実施した。本人が医療機関を受診してから数か月の間に実施したため、「かかりつけ医に相談してみる」という良い反応の方が多かった。また、対象者に運動教室を案内したところ、自身で受講先を見つけて、日常生活に運動を取り入れることができていた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 令和7年度以降も年4回、対象者を抽出し、本人の受診状況等を確認しながら対応する。また、訪問時に使用するパンフレットについて、理解しやすい内容のものに変更し、指導効果を高める。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいづくりの推進)



施策の方向：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

施策：通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績 (令和7年3月1日現在)
健康いきいき講座	保健指導必要な人のうち 保健指導実施率 (%)	90	63.1	67.3
シニア向け健康トレーニング教室	健康状態の維持・向上に つながった人の割合 (%)	80	94.9	97.1

<令和6年度評価>

- 通いの場の参加者にフレイルチェックを実施し、その結果から保健指導が必要な人を把握。徐々に実績が伸びている。
- シニア向け健康トレーニング教室では、全12回の教室で集中的に介護予防の取組を行うことで、参加者の介護予防に対する意識が高まった。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 引き続き、通いの場等における健康教育を実施することで、広く市民に介護予防の周知啓発を図る。また、フレイルチェックの結果や、教室の取組み結果を基に、地域の特性に応じた取組みを実施する。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいづくりの推進)



施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：介護予防普及啓発事業

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績 (①については令和7年 3月1日現在)
①介護予防フィットネス講座	介護予防に取り組むきっかけ となった人の割合 (%)	80	96.7	97.0
②運動実践教室	延べ参加者数	1,200	732	733

<令和6年度評価>

■ 運動実践教室では、地域で介護予防活動を行う団体と連携し、介護予防の講座等を通じて介護予防に関する正しい知識の啓発に努めた。また、介護予防フィットネス講座では介護予防のための運動やロコモ予防のための講話などを組み合わせた教室を開催し、定員を上回る申し込みがあった。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 今後も介護予防に関する普及啓発や介護予防に資する体操などを通じて、介護予防に関する正しい知識の普及・啓発を図るとともに、介護予防に取り組む市民が増えるよう努めていく。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいつくりの推進)



施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：地域介護予防活動支援事業

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
介護予防活動支援事業補助	支援団体数	60	53	50

<令和6年度評価>

- 令和6年度より週1回程度活動する団体の補助金額の上限を12万円から9万円に変更したこと及び、補助対象経費の内容を見直した。申請団体数は令和5年度実績数を下回った。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 高齢者が、住み慣れた地域で「居場所」「仲間」「役割」、さらには日常生活を送る上での「生きがい」を創出するための活動を支援することにより、介護予防を推進していく。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいづくりの推進)



施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：地域リハビリテーション活動支援事業

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
介護予防サポーター養成講座	累計養成人数	170	149	174
継続支援の講座	団体数	8	0	0

<令和6年度評価>

■ 6月29日に介護予防サポーター養成講座を開催し、11団体から新たに25名が介護予防サポーターとなった。これにより、サポーター累計人数は68団体で174名となっている。養成講座を受講した団体につき計3回のフォローアップの応援講座を実施しているが、その他の継続支援については検討に留まった。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 事業としては、年1回の養成講座と1団体につき計3回のフォローアップの応援講座を実施しているが、応援講座の回数や方法について見直しが必要である。また、サポーターが介護予防に関する知識を周りの人に広めてもらうための仕組みについても検討していく必要がある。

基本目標 4 高齢者がいきいきと健やかに生活し、社会参加ができるまち (介護予防サービス・生きがいつくりの推進)



施策の方向：高齢者の社会参加及び生きがいつくりの推進

施策：高齢者スポーツの振興

事業名	事業単位	目標	(参考) 令和5年度実績	令和6年度実績
65歳以上の市民の週1回以上の運動・スポーツ実施率	実施率 (%)	65	—	64.8

<令和6年度評価>

■ 目標にはわずかに届かなかったが、イベントの積極的な発信や、大津大石淀グラウンド・ゴルフ場の開設等により、運動やスポーツをする人が増えた。引き続き、機会充実や環境整備を進めていく。

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 気軽に始められるウォーキングをはじめ、誰もが参加できるスポーツイベントを開催していく。また、市民のニーズに合ったスポーツ環境の整備を行っていく。

基本目標 5 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)

施策の方向：介護人材の確保に係る取組の推進

施策：介護人材の確保及び介護事業所等の生産性向上に係る取組の推進

<令和6年度実績及び評価>

■ 介護の仕事の重要性や魅力の発信

- ・介護職員による学校での出前講座
実施校 6校
- ・おおつ介護フェスタ2024
参加者数 約6,500人
- ・ロゴマークの募集
約70作品から選定



■ 介護職の確保に係る取組の推進

- ・おおつ介護に関する入門的研修
参加者数 約20名
- ・介護職員との交流会【新規事業】
参加者数 約10名
- ・おおつ介護人材確保総合補助金
約250件 約2,200万円

■ 介護職の定着に係る取組の推進

- ・おおつ介護事業所オンラインセミナー
アクセス数 平均30件/回 計6回
- ・業務改善等コーディネーター派遣事業
支援事業所数 7事業所
- ・介護人材確保 総合情報サイト
閲覧数 約1,500~3,500/月

<令和7年度事業・今後の方向性>

■ 令和7年度においては、介護の仕事の魅力発信では、「おおつ介護フェスタ」や「学校への出前講座」を充実させ、若い世代が介護の仕事に興味や関心をもってもらえるように取組を進めていく。介護職の確保では、「入門的研修」と「介護職員との交流会」を一体的に開催し、事業所への就職につなげていく。介護職の定着では、事業所において資格取得など「キャリアアップした職員への給付金」の支給のほか、事業所の課題解決のための「オンラインセミナー」などを開催する。今後も国や県と連携しながら、本市独自の介護人材確保対策事業の取組を進めていく。

基本目標 5 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)

施策の方向：介護保険サービスの整備（1 / 2）

施策：地域密着型サービスの整備目標

サービス種別	整備目標	令和6年度実績
認知症対応型通所介護（介護予防含む）	24人／2か所	整備数：0、採択数12人/1か所
共用型認知症対応型通所介護（圏域指定なし）	事業者の提案による	整備数：0、応募なし
認知症対応型共同生活介護（介護予防含む）	36人／2か所	整備数：0、採択数36人/2か所
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1か所	整備数：0、応募なし
看護小規模多機能型居宅介護	事業者の提案による	整備数：0、応募なし

施策：入所・居住系施設サービスの整備目標

- ・入所・居住系施設サービスについては、新たな整備を行わず、既存施設の改築（危険区域の移転を含む）等を支援していく。
- ・既存の介護老人福祉施設が改築される場合、増床・多床室整備も認める。
- ・既存施設に併設の短期入所生活介護事業所から介護老人福祉施設への転換を審議のうえ一部認める。
- ・特定施設入居者生活介護の整備については、審議のうえ認める。

基本目標 5 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)

施策の方向：介護保険サービスの整備（2 / 2）

<令和6年度評価>

- 令和6年度に地域密着型サービスの公募を実施した結果、「認知症対応型共同生活介護（介護予防含む）」については整備目標どおりの事業採択となったが、「認知症対応型通所介護（介護予防含む）」及び「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」については、事業採択数が整備目標数に達することができなかった。
- 既存の介護老人福祉施設等の改築等を支援するため、大津市介護施設等整備費補助金交付要綱に改築に係る補助金単価を加える要綱改正案を作成した。
- 入所・居住系施設サービス整備事業者を公募し、以下のとおり、整備事業者を選考した。
 - ・既存施設併設の短期入所生活介護事業所（ショートステイ）から介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）への転換・・・4事業者 計26人（30人募集）
 - ・特定施設入居者生活介護への転換・・・1事業者 50人（60人募集）

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 事業採択数が第9期計画の整備目標に達していない以下のサービスについて、引き続き令和7年度においても事業者の公募を実施する。
【令和7年度に公募予定のサービス種別】
 - ・認知症対応型通所介護（介護予防含む）・・・12人/1か所
 - ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護・・・1か所
 - ・既存施設併設の短期入所生活介護事業所（ショートステイ）から介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）への転換・・・4人
- 既存の介護老人福祉施設等を運営する事業者へ、改築にかかる補助金単価の案を周知し、施設の改築を促進する。

基本目標 5 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)

施策の方向：介護給付等適正化への取り組みと目標

施策：取組方針及び目標

取組方針	実施目標	目標	令和6年度実績
要介護認定の適正化	調査票の点検 (%)	100	100
ケアプラン等の点検	ケアプラン点検 (件)	100	104
	住宅改修の現地確認等実態調査の実施 (件)	45	49
縦覧点検・医療情報との突合	国保連への委託、データを活用した突合 (%)	100	100

<令和6年度評価>

- 全ての取組方針について目標を達成することができる見込みで、介護給付等適正化に着実に取り組めた。

<令和7年度事業・今後の方向性>

- 引き続き各目標の達成に努めるとともに、ケアプラン点検においては、実地指導を取り入れるなど点検内容の充実を図ることで、介護給付等適正化への取り組みを進めていく。

(別紙) 7つのブロック別活動目標

1. 志賀ブロック（担当：和邇あんしん長寿相談所、小松あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

住み慣れた場所で高齢になっても安心して生活できる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■ 閉じこもりによる負の連鎖から要介護状態になることを防止するため、地域の関係者や住民等と一緒に徒歩で行ける身近な集いの場づくりを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小松学区において、情報交換会を持ち、サロン休止中の自治会での集いの場の再開に向けて協議を行った。また、サロンを継続している自治会においては、集いの場の充実を検討し、サロンを開かない月にカフェを開始することになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小松学区では、あんしん長寿相談所の健康教育や公民館活動とタイアップすることで、休止中の自治会で年に1～2回以上の集いの場が持てるように取り組んでいく。また、他学区についても順次検討していく。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 担い手がいない状況の中、サロンを維持・活性化するために、参加者だけで運営するしくみやボランティアの養成等、新たな運営方法について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小松学区においては、サロンの持続性についても検討を行い、地元の大学のボランティア活動としての参画について相談していくこととなった。また、和邇学区ではサロン交流会において、サロンを維持・活性化するための新たな運営方法について検討を行った。サロンへの移動の足については、市社協施設連絡会の志賀・北部ブロックにて、勉強会を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小松学区では、大津市社会福祉協議会を中心に、地元の大学に働きかけ、ボランティア活動としての参画の実現可能性について確認していく。また、サロンまでの移動の足についてニーズを確認し、福祉施設への協力を依頼していく。他学区についても順次検討していく。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常の買い物に困らないよう、個配や移動販売をしている商店の一覧を作成し配布するとともに、サロン開催時に合わせて移動販売を実施する等、商店や地区組織、住民等と連携して閉じこもり予防も兼ねた新たな買い物支援の方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 志賀ブロック内のお買い物支援チラシを作成し、相談時に配布できるようにした。また、民児協定例会にて配布し、周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個別相談やサロン、事業等にてお買い物支援チラシを配布し、広く周知を図る。また、商店や地区組織、住民等と連携して、新たな買い物支援の方法を検討していく。

2. 北部ブロック（担当：堅田あんしん長寿相談所、真野あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

みんなが、地域とつながりながら、自分らしくいきいきと暮らすことができる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動機能の低下による閉じこもり傾向の悪化を防止するため、民生委員や地区組織と連携して、運動機能の向上のための出前講座の実施や自宅でできる体操等の情報提供を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のサロンや老人クラブで、運動機能向上のための出前講座を計45回実施できた。また、各団体へフレイルチェック表を活用して、介護予防についての意識を高めるための働きかけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 既存のサロンや老人クラブで、運動機能の向上のための出前講座を継続して実施していく。また、今までに出前講座の依頼がなかったサロンに対して積極的に働きかけ、運動機能向上のための取組が導入できるよう支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 閉じこもりを予防するため民生委員や住民と連携して、身近な地域での集いの場づくりに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 堅田学区の居場所づくりに向けて、学区社会福祉協議会が主体となり、福祉委員を対象に自治会の現状を知るための研修を実施した。その結果、一人暮らしの世帯が予想以上に多く、サロン等集える場所がない地域があることが把握できた。また、お寺や自治会館を活用したサロンや体操教室の立ち上げ支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和6年度に立ち上がったサロンが継続できるよう状況を確認しながら支援をしていく。また、サロン等の集いの場がない地域の把握に努め、地域のニーズに応じた居場所づくりを支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 関係機関と連携して、孤立した高齢者や身寄りのない高齢者が、入退院や転居等に困らないような体制を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 家族が遠方に住んでいたり、身寄りのない高齢者に対し、支援者と連携し、医療機関の継続受診や介護サービスの導入につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 身寄りのない高齢者の課題を関係機関や地域と共有し、自治会単位での見守り体制づくり等、支援のあり方を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 8050問題、高齢者同士の介護を担う世帯に対して、民生委員や地域との関係者との連携により、早期発見、早期対応ができるように、見守り体制構築、連携の強化に取り組んでいきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仰木の里学区と伊香立学区では民生委員とケアマネジャーの交流会を開催し、お互いの活動内容や役割を理解するとともに、顔の見える関係づくりができた。真野北学区では見守り会議を開催し、地域での見守り体制の強化を図った。また、仰木の里学区では認知症高齢者の見守り支援をテーマに地域ケア会議を開催し、地域との連携強化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域ケア会議や見守り会議等を活用して、地域や関係機関との連携を強化し、見守り体制の構築につなげる。

3. 中北部ブロック（担当：比叡あんしん長寿相談所、比叡第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

高齢になっても助け合いながら安心して暮らせる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<p>■ あんしん長寿相談所の役割を地区組織や高齢者が関わりの深い医院や薬局、金融機関、商業施設をはじめ、子育て機関等に出向き広く周知することにより、支援を必要とする高齢者や家族が早期にあんしん長寿相談所につながる体制づくりを行います。また、同時に介護予防についての情報提供を行います。</p>	<p>■ あんしん長寿相談所案内やあんしん長寿相談所だよりを、高齢者の生活に関わりのある機関や地域活動の機会に配布して、あんしん長寿相談所の役割を広く周知したことにより相談件数が増加した。 また、介護予防をテーマとした出前講座や、定期的な健康教室を実施した。</p>	<p>■ あんしん長寿相談所案内やあんしん長寿相談所だよりの配布の機会を活用して、あんしん長寿相談所の役割を周知することで、支援を必要とする高齢者や家族が早期に相談につながるようにする。また、出前講座の利用が少ない地域へ積極的に働きかけ、介護予防の啓発を行う。</p>
<p>■ 閉じこもりによる運動機能や社会機能の低下を予防するため、関係者と連携しサロンの活性化や新たな集いの場づくりに取り組みます。また、足腰の痛み等で外出しづらい方のために地域の団体と連携して送迎等の社会資源の開発について検討します。</p>	<p>■ 地域の集いの場であるサロンの立ち上げ支援と、既存のサロンや老人クラブの継続支援を行った。送迎等については、地域の状況を確認しつつ、導入について検討を行った。</p>	<p>■ 集いの場に出向き、介護予防をはじめとしたさまざまなテーマの出前講座を実施することで、サロンの活性化や継続支援を行う。また、日吉台学区におけるサロン送迎を実現するとともに、学区社会福祉協議会と協働し、拡大に向けた検討を行う。</p>
<p>■ 介護を担う家族の問題をチームで支援できるよう、高齢者分野以外の関係機関と意見交換を行い、連携を強化します。</p>	<p>■ 複数課題を持つ高齢者について、地域ケア会議を開催し、障害分野・保健所・福祉分野・警察等との連携を図った。また、重層的支援会議に参画し、高齢分野以外の関係機関と家族支援について検討を行った。</p>	<p>■ 在宅療養を支えるための連携を強化するため、顔の見える関係づくりを目指した民生委員とケアマネジャーの交流会を開催する。また、地域ケア会議において地域課題を共有するとともに、他分野とも協同してチームで課題解決ができる体制を整える。</p>

4. 中部ブロック（担当：中あんしん長寿相談所、中第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

高齢者が人とつながり、困った時に気軽に相談しあえる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<p>■ あんしん長寿相談所の認知度をあげる取組として、高齢者が立ち寄る場所やマンション等、新たな「あんしん長寿相談所だより」の配布先の開拓を行います。また、自治会未加入者にも情報が届くようにします。</p>	<p>■ 今まであんしん長寿相談所だよりを配布出来ていなかった銀行や商店、寺院等と交渉し、新たに配布することができた。また、高齢単身世帯、高齢世帯が集中する山中比叡平学区の自治会では、あんしん長寿相談所だよりを、全戸配布してもらい、住民に相談窓口の周知を図った。</p>	<p>■ 新たに郵便局、コンビニ、ドラッグストア、スーパーにあんしん長寿相談所だよりの設置を働きかけ更に認知度を上げていく。</p>
<p>■ 運動機能が低下し、転倒リスクの高い高齢者が多いため、各サロンにおいて、転倒・骨折予防のための講座を開催し下肢筋力の強化に力を入れます。また、身近な集会場等で、介護予防体操（ハツラツ宇宙体操・いきいき百歳体操）が行える場所が増えるよう民生委員をはじめとした関係者で検討します。</p>	<p>■ 滋賀学区の高齢者向けマンション及び逢坂学区の自治会において百歳体操の立ち上げを支援し、その後、自主活動として定着した。長等学区では、まちづくり協議会と協働し、お達者くらぶが新たな介護予防の拠点となるよう支援を行った。また、サロン交流会で、各サロンの代表者に対して運動機能の低下や転倒リスクの高い高齢者が多い実情を伝えた。</p>	<p>■ 出前講座未実施または頻度が少ないサロンや自治会に対して、積極的に働きかけ、転倒・骨折予防のための出前講座を実施し、介護予防体操の普及啓発に努める。</p>
<p>■ 日常生活に支障の出ている高齢者を早期に見守り体制について協議します。</p>	<p>■ 地域ケア会議を通じて、日常生活に支障の出ている高齢者の見守り体制について、民生委員等の関係者と協議することができた。山中比叡平学区では、民生委員児童協議会の定例会に定期的に参加することで、生活困難者の早期把握、早期介入に繋げている。</p>	<p>■ まちづくり協議会や自治連合会に協力依頼し、自治会単位での見守り体制や気になる高齢者の早期相談につながるような取組を検討する。また、引き続き地域ケア会議を通じて、地域や関係と見守り体制づくりについて協議する。</p>
<p>■ 今までに関わりの無かったマンションの住民組織に働きかけ、生活実態や困り事を把握し、身近な場所での集いの場作りを行い、地域の助け合いの輪を広げます。</p>	<p>■ 今まで関わりがなかった滋賀学区のマンションに住む高齢者に対して、出前講座等を実施し、あんしん長寿相談所の役割を紹介するとともに、生活実態や困り事の把握を行った。</p>	<p>■ 各マンションの管理人を通じて、管理組合長に対し、見守り体制等に協力を頂けるよう依頼するとともに、地域での助け合いの方策についての検討を実施する。</p>

5. 中南部ブロック（担当：膳所あんしん長寿相談所、晴嵐あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

みんながつながって互いに助けあえる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援の必要な高齢者や家族が、早期にあんしん長寿相談所につながるよう、地域の診療所や関係機関に出向き、連携を深めます。また、高齢者の転居が多いマンションのモデルルームや不動産業者にもあんしん長寿相談所案内等を配布し、あんしん長寿相談所の役割を周知します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ あんしんだよりの配布を通してのPRを、地域の関係機関へ継続して行い連携を深めた。新しい金融機関やマンション等、新たな連携先もでき、認知症等の相談や見守り・協力体制にもつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 不動産業者にもあんしん長寿相談所の役割についてのPRを広げていくと同時に、高齢者の賃貸事情についての実態把握を行い、早期相談・早期介入につながるような体制を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の集いの場や介護予防の教室を希望する人が多いことから、地区組織や住民と連携して、サロンの活性化や集いの場の立ち上げを支援します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域からの希望や、あんしん長寿相談所からの声かけで、新たな介護予防の教室が2箇所、立ち上がった。また、一部の学区では、学区社協と連携し、多くの自治会に向けて介護予防の啓発や、活動の周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和6年度に立ち上がった介護予防教室を継続して開催できるように支援を行う。引き続き、地域の声・ニーズを探り、サロンの活性化や集いの場の立ち上げを支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たにまちづくり協議会と連携し、地域の現状について共有するとともに、地域のつながりづくりについて検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一部学区のまちづくり協議会へは、会議に出席し、連携の方法について検討を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちづくり協議会と連携を図り、地域の現状について共有するとともに、地域のつながりづくりのための取組について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者を取り巻く家族全体にも視野を広げ、支援が必要な場合には適切な支援関係機関と連携します。また、介護者の離職防止のための相談・情報提供を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多問題家族への支援については、すこやか相談所、保健所、権利擁護サポートセンター、障害福祉課、生活福祉課、福祉政策課等の関係機関と随時連携を図り対応をしている。また、介護離職問題については、個々の相談に応じるとともに、エリア内の企業で従業員向けのセミナーを開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多問題家族の支援については、関係機関とのスムーズな連携や広い範囲でのチーム対応を目指していく。介護離職防止についても、引き続き、相談窓口の1つとなる様、情報提供を続けていく。

6. 南部ブロック（担当：南あんしん長寿相談所、南第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

支え合っていつまでも安心して暮らし続けられる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ■ 民生委員や地域の関係者と低栄養や咀嚼機能の低下がみられる高齢者が多い現状を共有し、口腔機能向上のための介護予防講座を開催する機会を増やします。また、閉じこもり傾向にある人に介護予防や相談窓口等の必要な情報を伝える手段を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治会や老人会の役員と出前講座について検討する際に、低栄養や咀嚼機能の低下予防についての内容を提案し、両テーマで計4回の出前講座を実施した。サロンの欠席者にも資料を届けてもらうよう依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今後も、サロン役員に低栄養、咀嚼機能低下の状況や予防の必要性を伝え、出張講座のテーマに選んでいただくよう提案する。地域エリア会議を開催する中で高齢者の見守り支援者を増やし、閉じこもり傾向にある方への情報提供についても検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 閉じこもり傾向にある人の更なる機能低下やうつ傾向を予防するため、商店街と連携してサロンで移動販売を実施する等、高齢者が外出し地域と交流しやすい方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 田上、大石学区においてサロンの立ち上げ支援を行った。石山学区では地域役員とともに学区サロンを開催、田上学区では平和堂と連携して移動販売体験会を3月末に開催する等、高齢者が外出する機会を増やす取組を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 引き続き、地域役員と高齢者の外出機会を増やすために対策を検討し、協働で取組を進めていく。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 8050問題について、早期からあんしん長寿相談所とすこやか相談所等関係機関と連携し、同行訪問するなど対応を行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎月、すこやか相談所職員と情報を共有し、8050問題のある家族について、今年度は7件、初回から同行訪問による支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎月かつ必要時に、すこやか相談所や関係機関と情報共有し同行訪問など引き続き実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知症等支援の必要な高齢者や家族が早期にあんしん長寿相談所につながるために、医療機関や関係機関とのネットワークを強化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域エリア会議を開催し、民生委員や自治会役員などこれまでの連携機関のほかに交番、消防署とも相談しやすい関係を築くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域エリア会議を重ねることで、地域の関係機関と連携を深め、あんしん長寿相談所に早期に相談が入るようにする。

7. 東部ブロック（担当：瀬田あんしん長寿相談所、瀬田第二あんしん長寿相談所）

ブロック別基本目標

見守り支えあい高齢者になっても安心して生活できる地域

地域課題からの重点的な取組	令和6年度評価	令和7年度事業・今後の方向性
<p>■ 介護予防のため「フレイル対策」を含む内容の出前講座や啓発活動を支所や商業施設で実施し、IADL（手段的自立度）が低下している高齢者の早期把握に努めます。</p>	<p>■ 全ての学区のサロンや老人クラブでフレイル予防の講座を実施した(71回)。初めてフォレオー里山で介護予防啓発を行うなど、地域の商業施設でも介護予防対策の普及に努めた。</p>	<p>■ 学区の会議や地域に出向いた時、あんしん長寿相談所だよりの回覧など、様々な機会を通じて介護予防や出前講座についての啓発を実施する。また、地域に出向く機会を増やし、IADLが低下している高齢者への早期対応に努める。</p>
<p>■ 高齢者の居場所の維持及び活動場所を増やすため、自治会や民生委員、商業施設等と相談し活動場所の確保・調整を行います。</p>	<p>■ 大津市社会福祉協議会と協力しながら瀬田北学区でサロンの出張版を開催した。</p>	<p>■ 地域役員や社会福祉協議会、商業施設と協力して、サロンの出張版や新たなサロンの立ち上げなど、高齢者の居場所づくりを支援する。</p>
<p>■ 男性介護者には介護に役立つリーフレット等を配布します。また、男性介護者に対する理解を図るため、介護職や介護支援事業所等への啓発を行い連携を強化します。</p>	<p>■ 男性介護者支援をテーマに全ての学区で地域ケアエリア会議を開催し、民生委員やケアマネジャー等と事例を通し男性介護者に多く見られる傾向や地域でできる支援について検討し、連携を強化した。また、地域ケアエリア会議や介護相談等で男性介護者に向けたパンフレットや男性介護者のつどいの案内を配布し、情報提供を行った。</p>	<p>■ 研修会などの機会を活用し、地域住民や関係者に男性介護者支援のリーフレット配布し、男性介護者に対する理解を深め、支援のための連携を強化する。</p>
<p>■ 東部ブロックでは高齢者虐待対応件数が多く、特に男性介護者による虐待が多いため、家族介護者（特に男性）への支援が行き届き、負担軽減につながる取組を行います。</p>	<p>■ 東部ブロックでは高齢者虐待対応件数が多く、特に男性介護者による虐待が多いため、家族介護者（特に男性）への支援が行き届き、負担軽減につながる取組を行います。</p>	<p>■ 研修会やイベント、掲示板等を活用し、家族介護者支援の必要性を周知し、介護負担軽減につながる取組を実施する。</p>
<p>■ 認知症高齢者やその家族の生活を支えるため、関係機関や地域とともにネットワークを強化します。</p>	<p>■ 青山あんしん長寿相談所では地域の認知症高齢者等行動支援マニュアル会議に参加し、関係者のネットワークを強化した。上田上学区では認知症カフェの開設を地域に提案し、取組を進めている。瀬田南学区では民生委員児童委員を対象に行方不明高齢者早期発見ダイヤルや行方不明高齢者GPSシステム等、認知症高齢者の生活を支える制度の研修を行った。</p>	<p>■ 認知症高齢者支援について、民生委員や警察等関係機関との連携の強化に努め、必要に応じて支援者会議を実施する。また、公民館の掲示板を活用し、認知症カフェの紹介やサポーター養成講座の案内を行い支援者を増やしていく。</p>